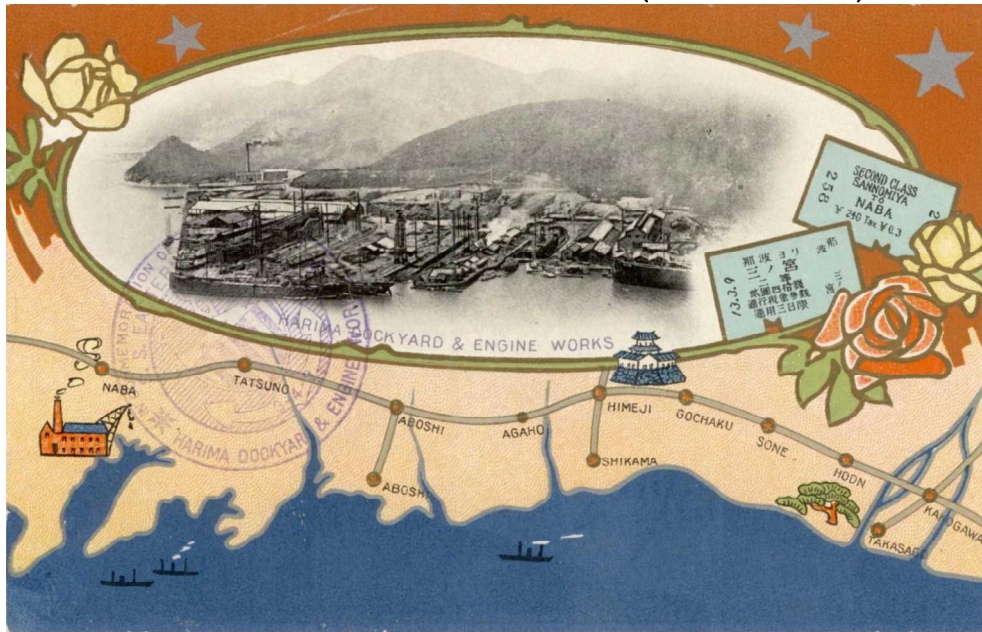


鈴木商店による播磨造船所の拡張（外観の推移）



1920.04.03 EASTERN SOLDIER 進水記念絵葉書

播磨造船所50年史に、大正時代、鈴木商店が播磨造船所を拡充していく過程が詳述されている。昨年末、相生市立歴史民俗資料館は鈴木商店工事が播磨造船所拡充のために作成した計画図等の青写真を入手した。このレポートは、計画図・相生映像アーカイブが管理している画像・播磨造船所50年史の記述を照合し、大正時代の播磨造船所の外観の変遷を時系列でまとめたものである。解説文は播磨造船所50年史の記述を元になっている。

相生村長(県会議長)唐端清太郎、村の将来を託す造船所を構想

1907(M40)年 3月 播磨船渠株式会社創立 船渠工事に着工するが、渠口崩壊で破綻

1911(M44)年 1月 播磨船渠合名会社設立 船渠工事再開 1912年1月 船渠完成

1912(M45)年 6月 播磨造船株式会社設立 修繕船主体の小規模造船所として操業

1915(T04)年 8月 一番船、鈴木商店発注の曳舟「神の浦丸」進水

9月 唐端清太郎、鈴木商店の金子直吉に買収と拡張を要請

鈴木商店、播磨造船の買収と大規模な拡張・新造船事業への進出を計画

仮船台を建設し、二番船の貨物船「吉備丸」起工

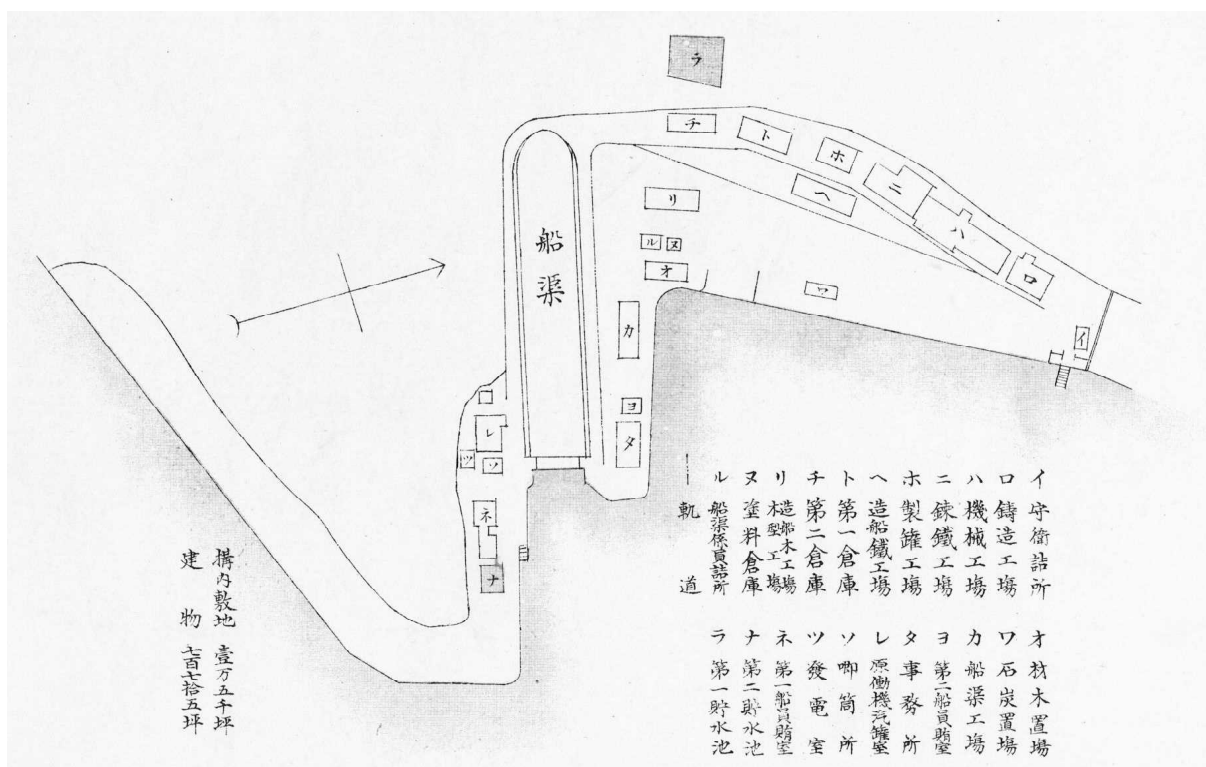
1916(T05)年 4月 鈴木商店、株式会社播磨造船所設立 1917(T06)年から新船台で建造開始

1918(T07)年 5月 鈴木商店の事業編成で帝国汽船株式会社播磨造船所に

1921(T10)年 2月 鈴木商店の事業編成で株式会社神戸製鋼所播磨造船工場に

1929(S04)年11月 株式会社神戸製鋼所、播磨造船工場を分社し株式会社播磨造船所を設立

I 播磨造船株式会社構内平面図 1913(T02)年



1913年発行の播磨造船写真帖より播磨造船株式会社構内平面図

日露戦争後、相生村長唐端清太郎は、村の将来を託して造船業への進出を企てた。当時、唐端清太郎は県会議長に就いており、阪神の政財界に幅広い人脈を有していた。1907(M40)年、神戸財界と地元有力者の出資によって播磨船渠株式会社が創立され、社長に小曾根貞松(阪神電鉄社長)、専務に唐端清太郎が就任する。甲崎の北側が防波に適していることから、この地に6000総トン級の船渠を建設する工事を進めたが、1909(M42)年、渠口が崩壊し播磨船渠株式会社は破綻、未完成の船渠は放置された。

高橋為久は事業の再建を決意し、1911(M44)年、播磨船渠合名会社を設立して工事を再開した。1912(M45)年1月、船渠が完成、岡崎汽船の日英丸が初入渠した。村人はこの船渠を「わしらのドック」、造船所を「ハリマドック」と呼んだ。

1912(M45)年6月、高橋為久は唐端清太郎の斡旋で神戸の汽船会社の出資を受け、播磨造船株式会社を設立した。経営陣には岸本・辰馬・八馬・岡崎など海運資本家が加わった。新会社は船渠の北に機械工場・鋳物工場・製缶工場などを建設し、海岸の埋め立てを進めた。1914(T03)年の工場敷地は6745坪になり、小規模ながら修繕工場らしい施設を有するようになる。従業員は100人～300人程度、数人の技術者と神戸や因島から引き抜いた少数の熟練工の他は、仕事の繁閑にあわせて地元の人を請負制度で雇用した。経営面では、資本参加した船会社から修繕船の受注はあったものの修繕料を値切られたため業績は低迷した。

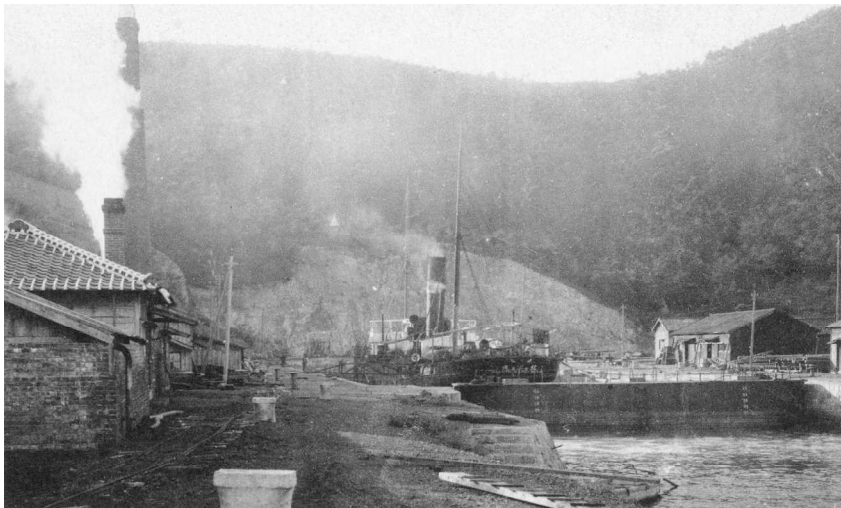


1913(T02)年

播磨造船全景

左が船渠、中央は事務所、
右の奥に製缶工場
や機械工場が並ぶ

播磨造船写真帖



1914(T03)年

船渠を排水するポンプ
は蒸汽機関であった。

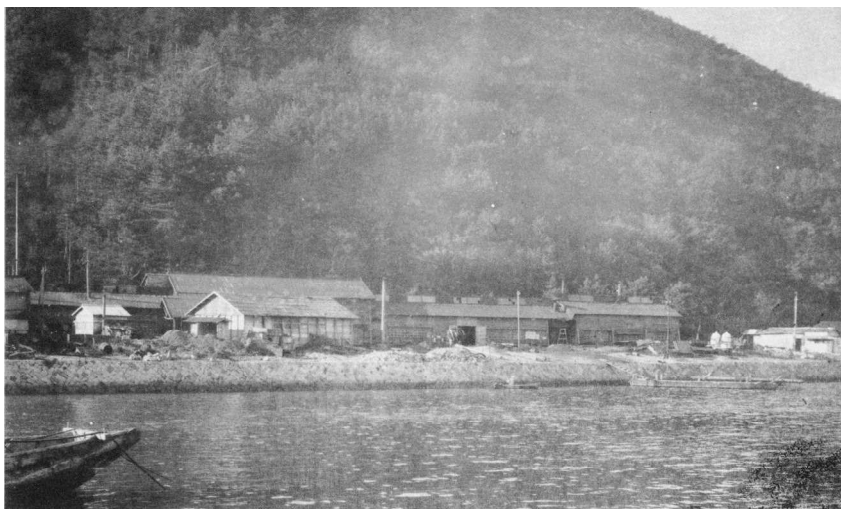
左は原働機の汽缶室で、
ランカシアボイラ 2 基
が設置されていた。

右は船渠工場

絵葉書

赤穂郡播磨造船所其一

(久我商店) 藤井撮影



1914(T03)年

左から倉庫、製缶工場、

手前に造船鉄工場

鍛鉄工場、機械工場

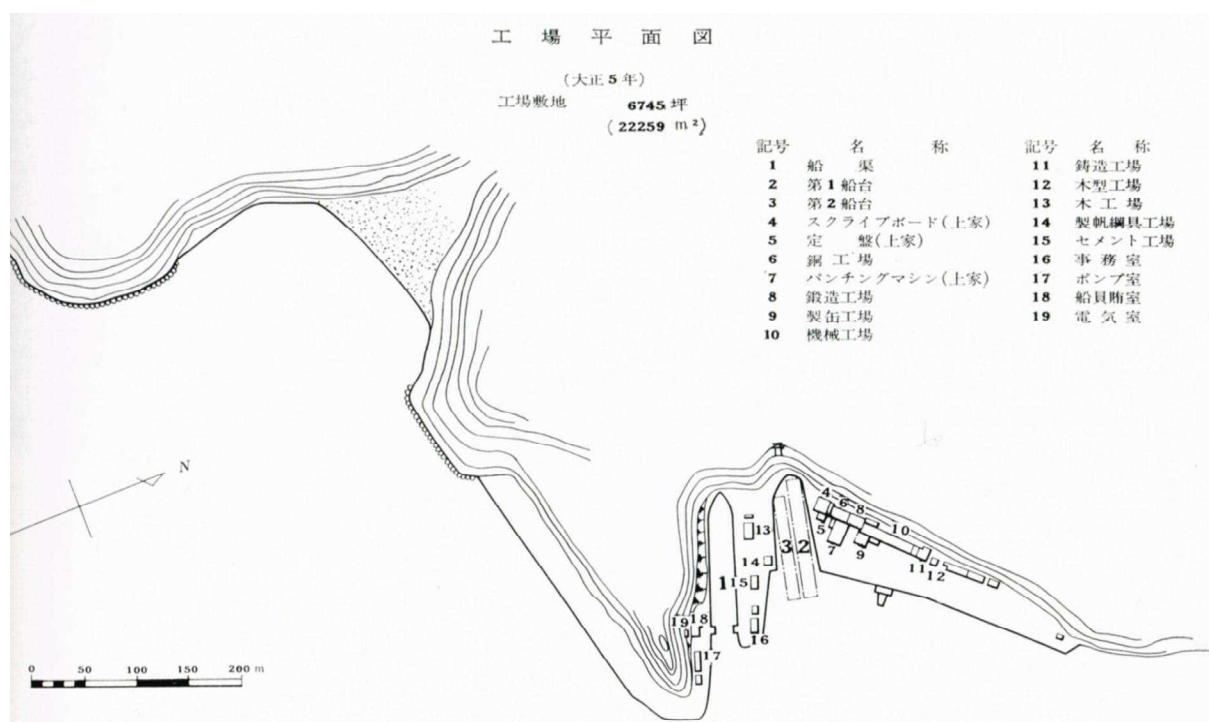
鑄造工場

絵葉書

赤穂郡播磨造船所其二

(久我商店) 藤井撮影

II 株式会社播磨造船所工場平面図 1916(T05)年



播磨造船所50年史より 1916(T05)年の工場平面図

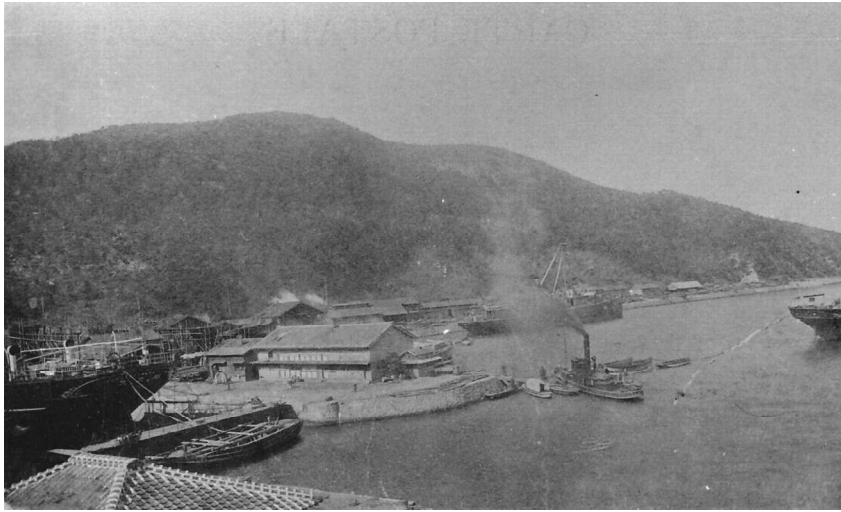
1914(T03)年7月、第一次世界大戦が勃発、運賃・船価が高騰して海運・造船業界は未曾有の好況となった。合名会社鈴木商店の金子直吉は造船事業に進出するため、辻湊を起用して造船事業の計画を策定させ、造船に適した用地や既設造船所の買収に乗り出した。

一方、修繕主体の播磨造船株式会社は経営不振が続き、新しい情勢に対応するための積極的な事業展開が困難であった。1915(T04)年9月、相生町長唐端清太郎と有志は鈴木商店に播磨造船株式会社の買収と工場の拡張を申し入れた。金子直吉・辻湊は、川崎造船所の松方孝次郎・三菱神戸造船所の杉谷安一らの意見を聞き、播磨造船株式会社を買収して大造船工場に拡張する方針を決定した。

1916(T05)年4月、鈴木商店は播磨造船株式会社の事業のすべてを継承して、株式会社播磨造船所を設立、辻湊が専務取締役、高橋爲久・西村和平が取締役に就任した。播磨造船所は新造船事業に参入するため、船渠の北に二つの仮船台を作った。1917(T06)年前期までに起工された船は仮船台で建造された。

鈴木商店が株式会社播磨造船所を発足させたときの工場設備

敷地	6745坪	建物	20棟	1060坪
船渠	1基	長さ	434呎(フィート)	
船台	第一船台	長さ	340呎	第二船台 260呎
従業員	職員18名	工員	252名	計270名

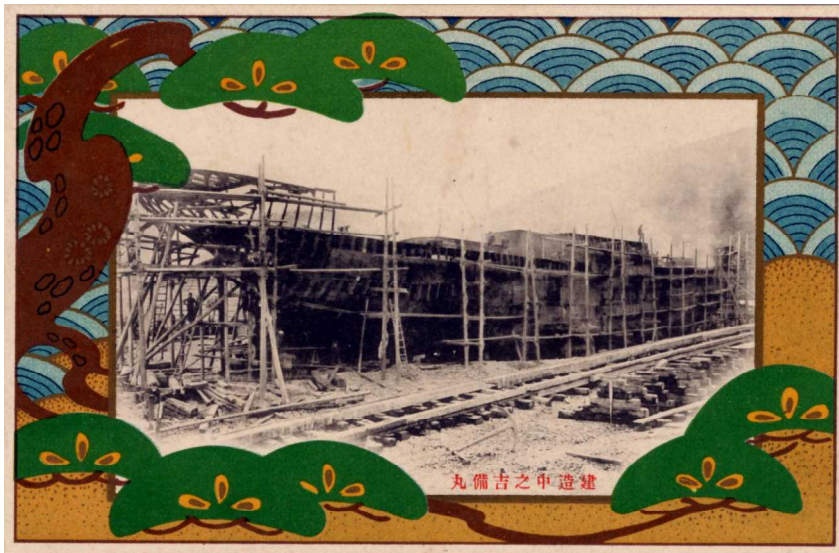


1916(T05)年

鈴木商店が買収した頃。
埋立による工場拡張は
行われていないが、船
渠の右(北)に仮船台が
設けられ、新造船の建
造が始まった。

絵葉書

相生港播磨造船所全景



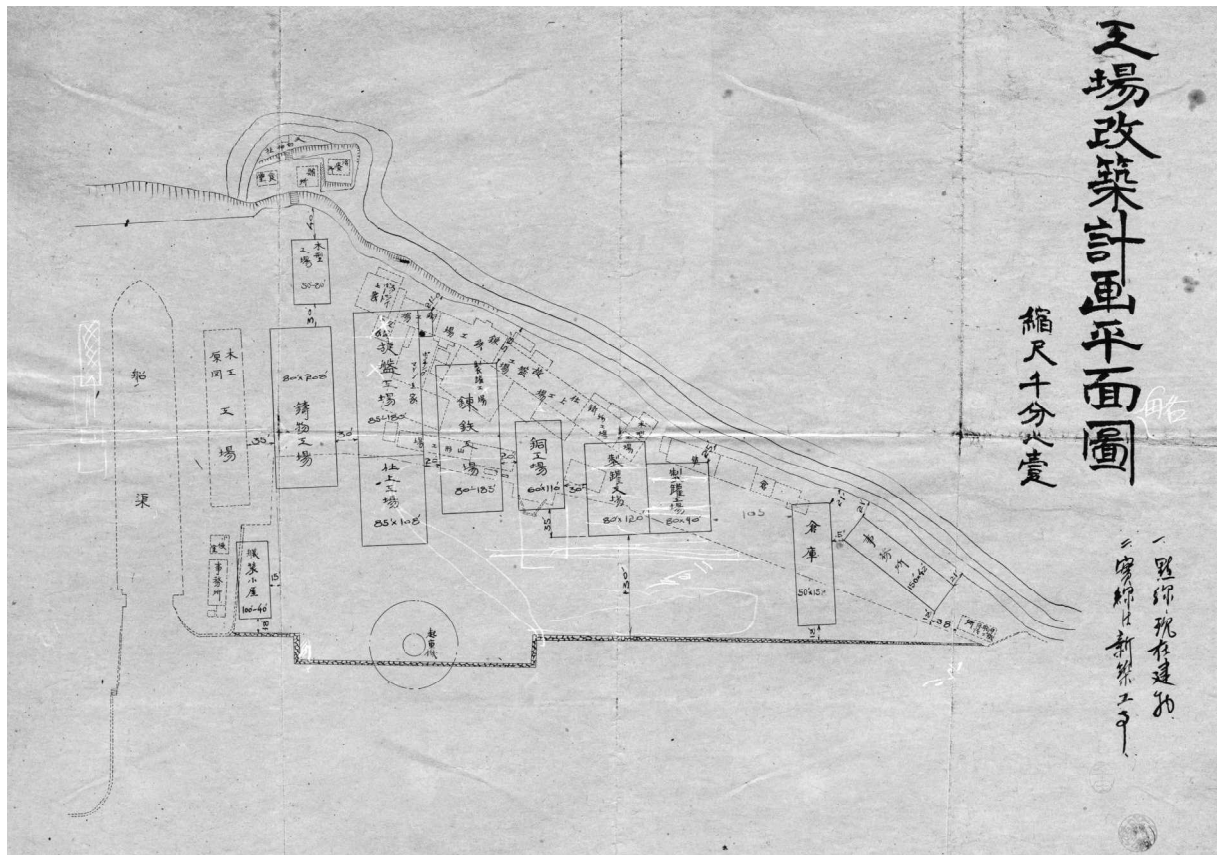
1916(T05)年

2 番船吉備丸

吉備丸は1174総トンの
貨物船で、相生で建造
された鋼製で最初の船
である。1915(T04)年12
月、船渠北側の仮船台
で起工された。鈴木商
店が株式会社播磨造船
所を設立するのは1916
(T05)年4月であるが、
経営権は1915(T04)年内
に鈴木商店に移り新造
船の建造が始まったの
ではないかと推定する。
絵葉書に播磨造船株式
会社の社旗が描かれて
いることから、1916年3
月頃に、鈴木商店が新
造船事業進出を広報す
るために作成したもの
かと思われる。



III-1 株式会社播磨造船所工場改築計画平面図 1917(T06)年



鈴木商店工事部 工場改築計画平面(略)図 青写真を白黒反転させている

鈴木商店は、金子直吉の意図に従って、大型船の建造を目標に工場拡張計画を立案した。1917(T06)年、入社した平田保三が参画して再審議し、拡張計画が決定した。

第一期埋立工事 1916(T05)年12月埋立免許取得

船渠の南に20000坪を埋め立て、船台と工場を建設する

第二期埋立工事 1918(T07)年1月埋立免許取得

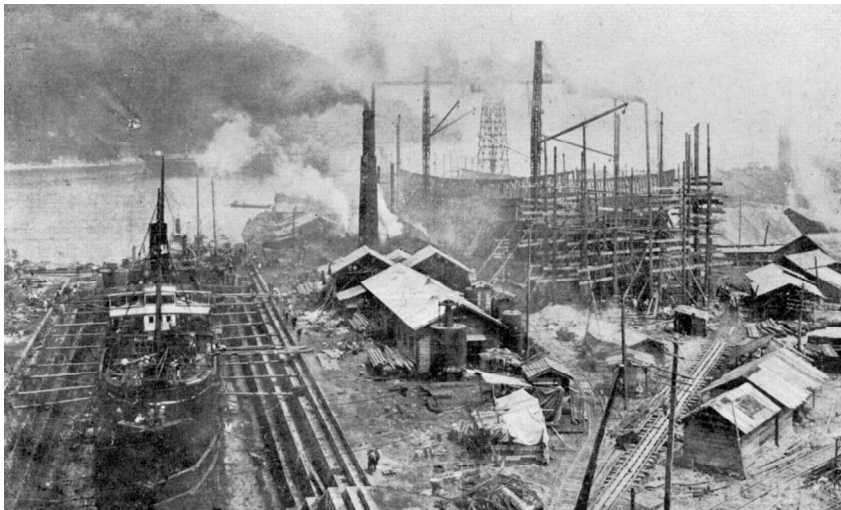
船渠の北、既存工場前面の4500坪を埋め立て、工場と係船岸壁を建設する

1917(T06)年、船渠の南にある甲崎を崩して海面を埋め立て、船台を新設する工事が始まった。埋め立て工事は難航したが、年末には第一船台と第三船台が完成した。第一期工事を継続しながら、1918(T07)年2月、第二期工事が着工された。上は、第二期埋立工事にもなう工場改築計画平面(略)図で、1917(T06)年の年末から1918(T07)年の年初にかけてのものと推定される。山際に並んでいるのが既存工場。前面の海面を埋め立てて新工場を建設し、既存工場を取り壊す計画である。図面の段階では、仮設の船台は撤去されており、木工・原図工場だけが完成している。図面の右下に、平田・門田伝三の捺印がある。平田は1917(T06)年に入社し技師長に選任された平田保三。1917(T06)年11月の職制表では、平田保三は播磨造船工場支配人、門田伝三は平田の配下で施設担当となっている。



1917(T06)年

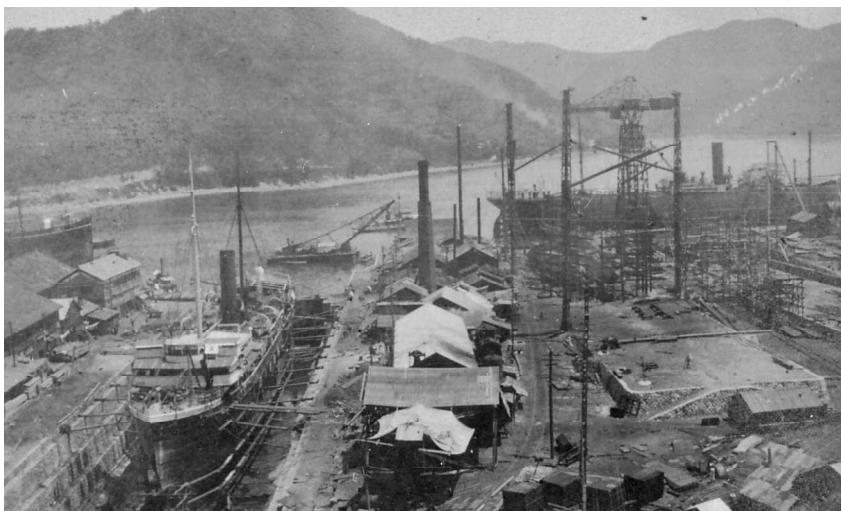
海面埋立工事は高知県人の濱口勇吉が請け負った。写真は濱口組下交友組が第一船台を建設している様子。背景の船のファンネルマークは鈴木商店の米印。



1917(T06)年

甲崎を取り崩して埋立に使う予定であったが、岩盤が強固で爆破作業が難航、埋立工事は遅れがちであった。

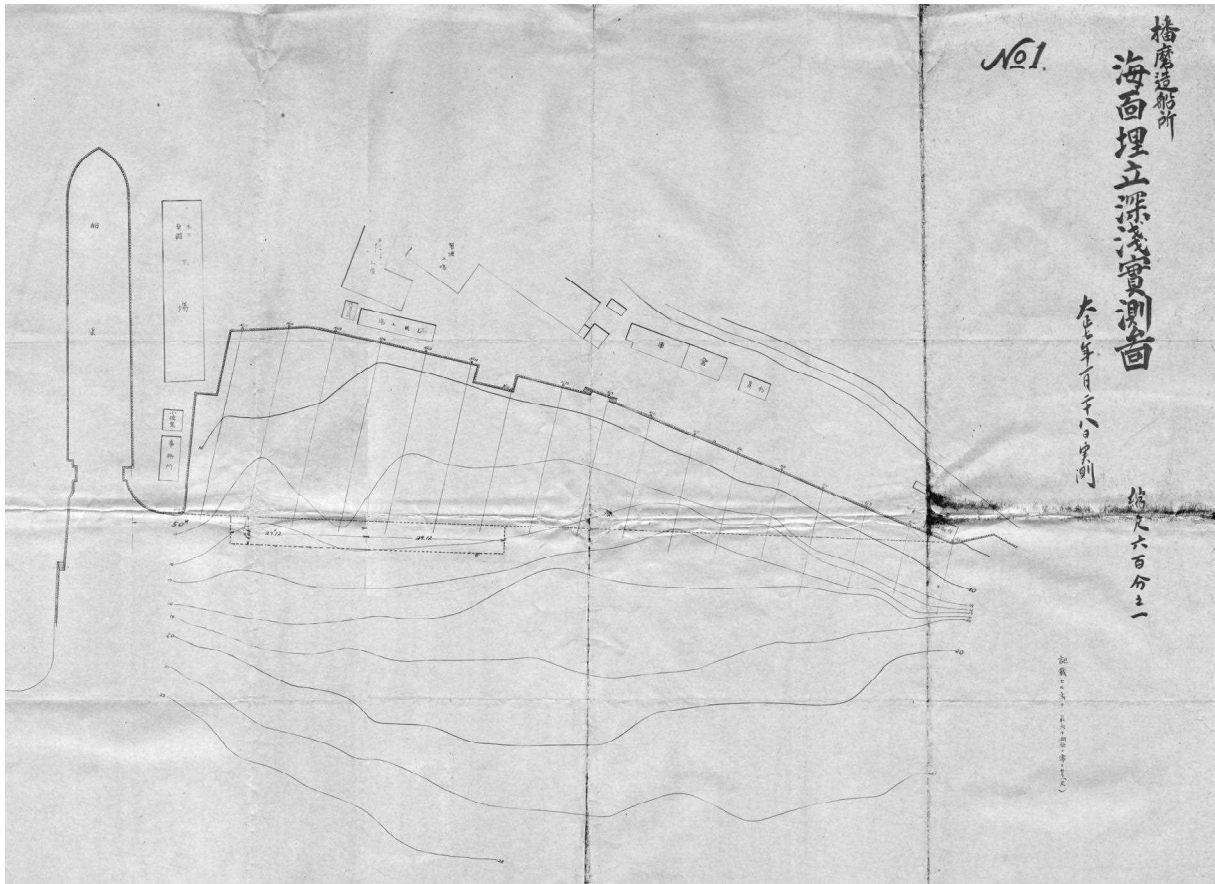
1917(T06)年7月、未完成の第一船台で帝国汽船の第六与禰丸3165総トンを起工した。



1918(T07)年

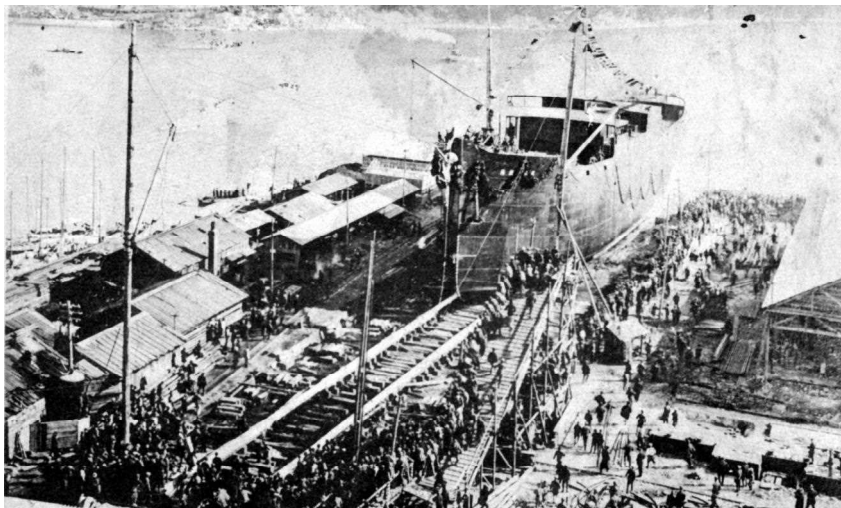
完成した第一船台。船台は、長さ520呎6000総トンの船台5基が計画された。1917(T06)年の年末に第一船台と第三船台が完成、1920(T09)年に残りの船台が完成した。

III-2 株式会社播磨造船所海面埋立深淺実測図 1918(T07)年1月28日



鈴木商店工事部 播磨造船所海面埋立深淺実測図 青写真を白黒反転させている

1917(T06)年に始まった船台を建設するための第一期埋立工事に続いて、第二期埋立工事が計画された。第二期埋立工事は、船渠の北にある既存工場前面の4500坪を埋め立て、工場と係船岸壁を建設するためのものであった。上の図面は、1918(T07)年1月、埋立免許を取得した頃に海の深淺を測定して作成したものである。木工原図工場の右、仮船台2基があったところは空白になっている。第二期埋立工事は2月8日に着工した。



1918(T07)年1月12日
第六与禰丸の進水式。
第一船台は本船建造中の1917(T06)年11月に完成した。

絵葉書

壮快ナル進水式ノ景

(播磨造船所)

(藤井謹写)



1918(T07)年3月

相生湾の第六与禰丸。

本船はWAR AMAZONと改称され、アルフレッド商会の所有船となった。

絵葉書

播磨造船所建造第七号船

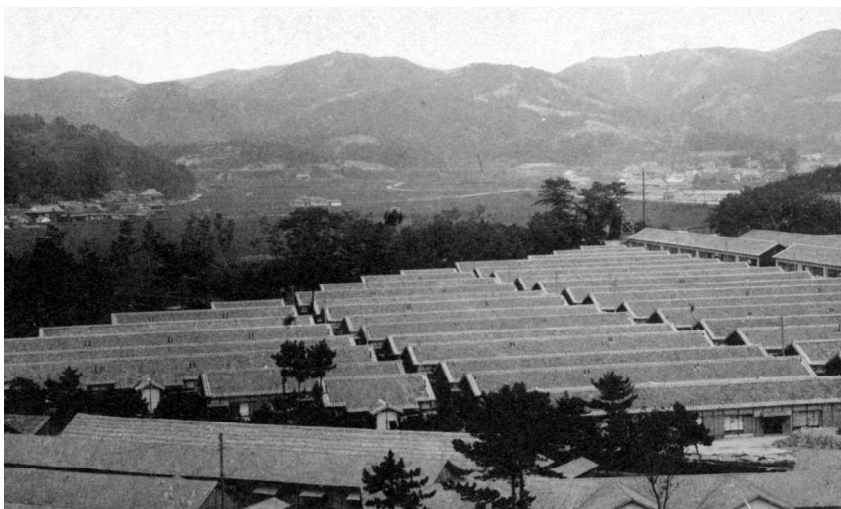
第六与禰丸

(藤井謹写)



1918(T07)年

第二期埋立工事で造成された土地の北端に建設中の表事務所。建設中に播磨造船所は帝国汽船と合併した。完成は7月20日。8月に入って米騒動が勃発、8月12日に神戸の鈴木商店本店が全焼した。



1918(T07)年頃

工員数は1916(T05)年の252名から、1917(T06)年2300名、1918(T07)年4500名に急増、藪谷に社宅街が建設された。

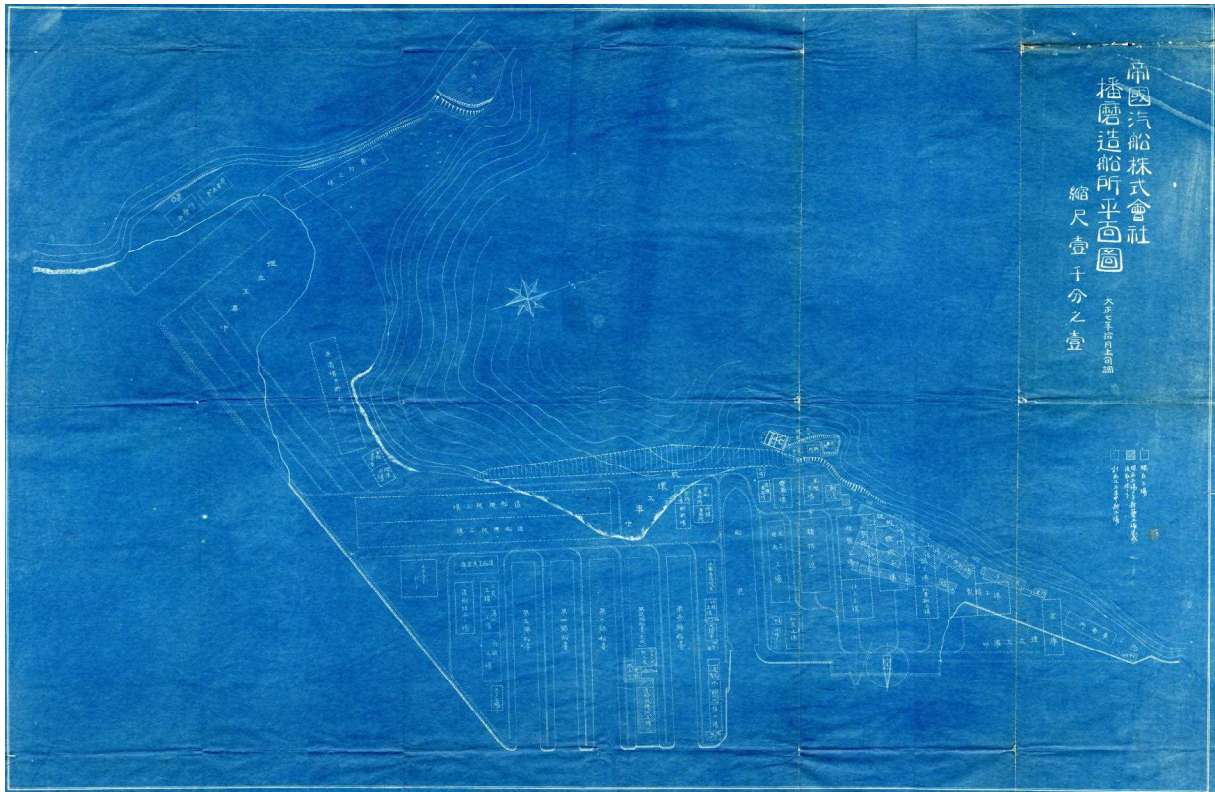
絵葉書

兵庫県赤穂郡相生港

播磨造船所藪谷社宅全景

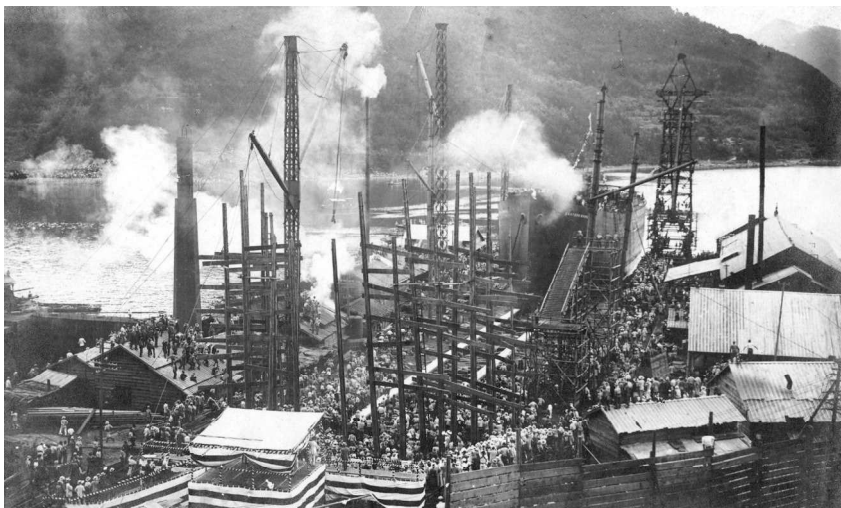
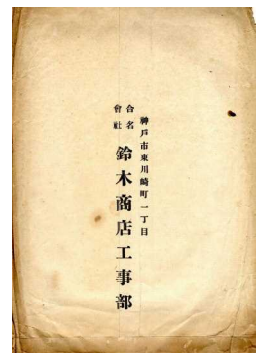
(藤井謹写)

IV 帝国汽船株式会社播磨造船所平面図 1918(T07)年10月

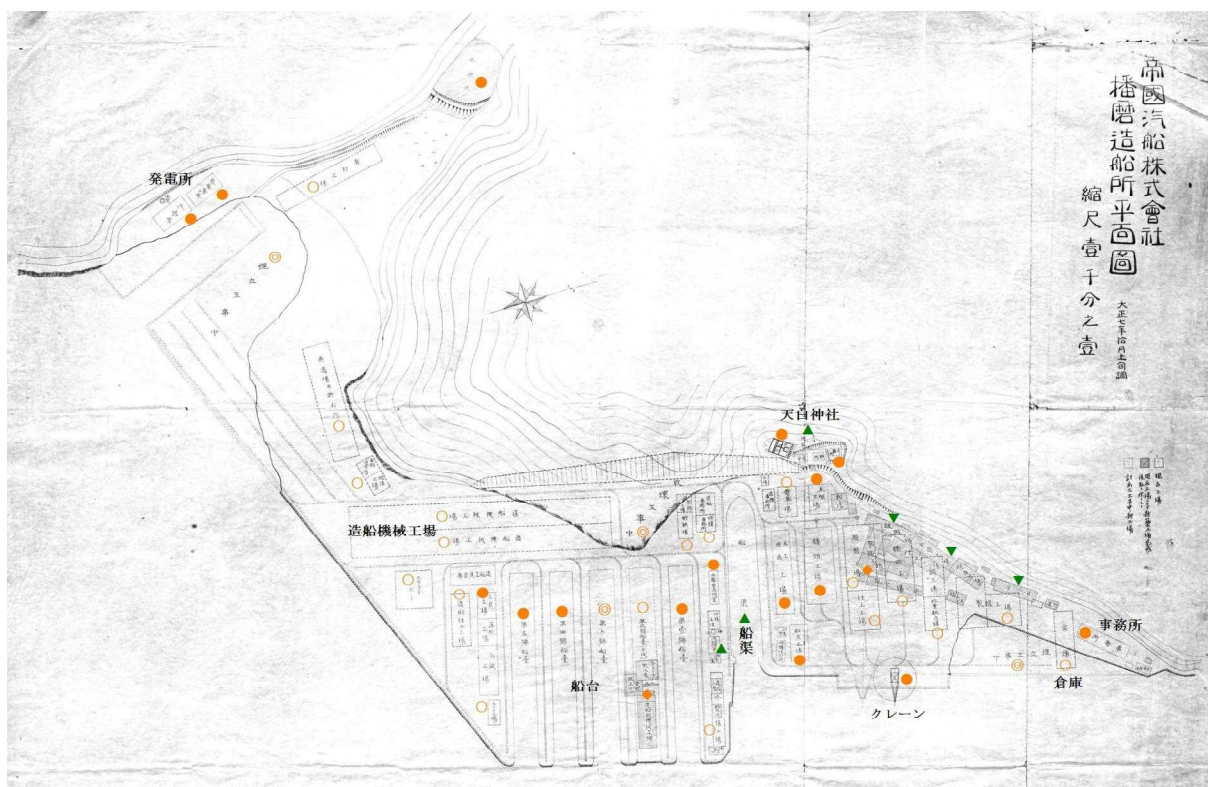


1918(T07)年10月 帝国汽船株式会社播磨造船所平面図

1918(T07)年、鈴木商店ロンドン支店長高畑誠一は、戦争終結が近いという情報を本店にもたらした。鈴木商店は海運・造船系統の事業再編に着手し、1918(T07)年5月、播磨造船所・鳥羽造船所・浪華造船所を帝国汽船株式会社に合併、帝国汽船造船部とした。この頃の播磨造船所は実質的には鈴木商店の一部門で、鈴木商店の供給する工場建設資金・運転資金によって事業の拡張が行われていた。



1918(T07)年8月21日
EASTERN SHOREの進水式
第8与禰丸として起工された6806総トンの貨物船。船鉄交換契約の第一次契約分として米国に輸出された。



1918(T07)年10月 帝国汽船株式会社播磨造船所平面図 青写真を白黒反転して記号・文字を加筆

平面図は第一次世界大戦終結の一ヶ月前の播磨造船所の様子を示している。

- ▲ 鈴木商店買収以前に造られ、稼働を続ける施設
- ▼ 鈴木商店買収以前に造られた施設で、新工場を建設した後に取り壊す予定の施設
- 鈴木商店が新築した施設
- ◎ 海面埋め立て工事中・岬取り壊し工事中・船台建設工事中
- 新築予定の施設



1918(T07)年2月 多くの修繕船が繫留されている。1917(T06)年12月、因島の備後船渠売却にともない三上英果以下60名が入社、彼らの技術を生かして修繕船工事を推進した。



1919(T08)年

4月 鋳物工場

8月 赤煉瓦倉庫

10月 ワーククレーン

が完成し、工場の再編
が進んでいる

絵葉書

兵庫県赤穂郡相生港

播磨造船所全景其一

(藤井謹写)



1919(T08)年

8月に発電を開始した藤
戸発電所の煙が見える。

第二船台・第四船台は
工事中で1920年に完成。
造船機械工場は鉄骨組
み立てが始まっている。

絵葉書

兵庫県赤穂郡相生港

播磨造船所全景其二



1919(T08)年

対岸の城山から撮影。

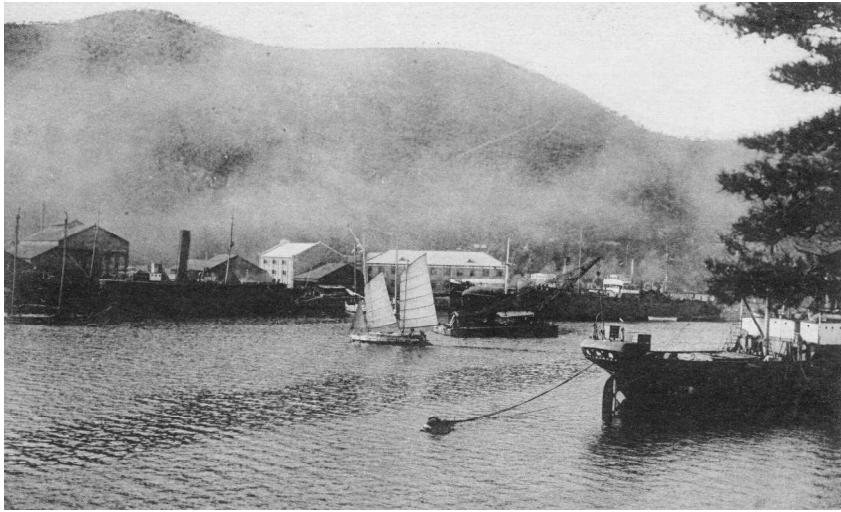
鋳物工場・赤煉瓦倉庫
・ワーククレーンが完
成しており、上の絵葉
書と同じ時期の写真。

絵葉書

帝国汽船株式会社

播磨造船所の景

(岡田商店発行)



1920(T09)年

正面に見えている白い建物は、左が3階建の赤煉瓦倉庫、右が事務所。

絵葉書

兵庫県赤穂郡相生町網ノ浦ヨリ見タル播磨造船所全景
(久我商店発行)

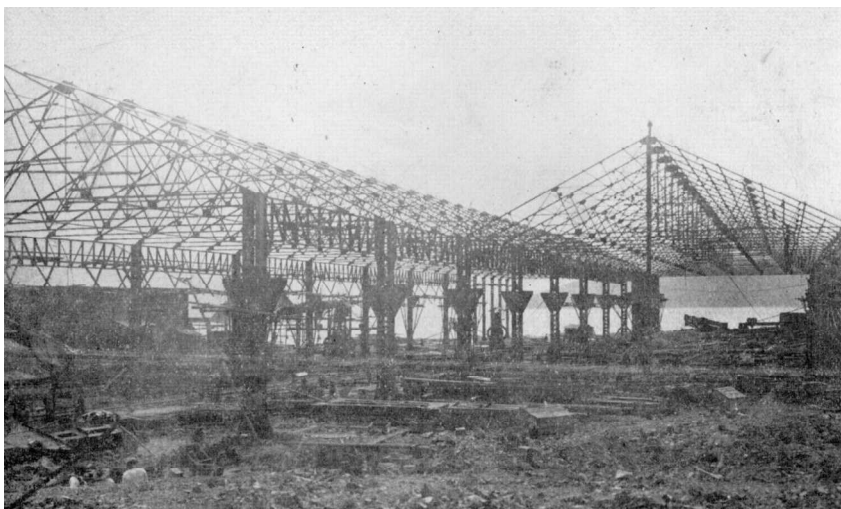


1919(T08)年

工員は対岸の栈橋から渡船で通勤した。幹部社員は高速艇が送迎した。左端に事務所と赤煉瓦倉庫が見えている。

絵葉書

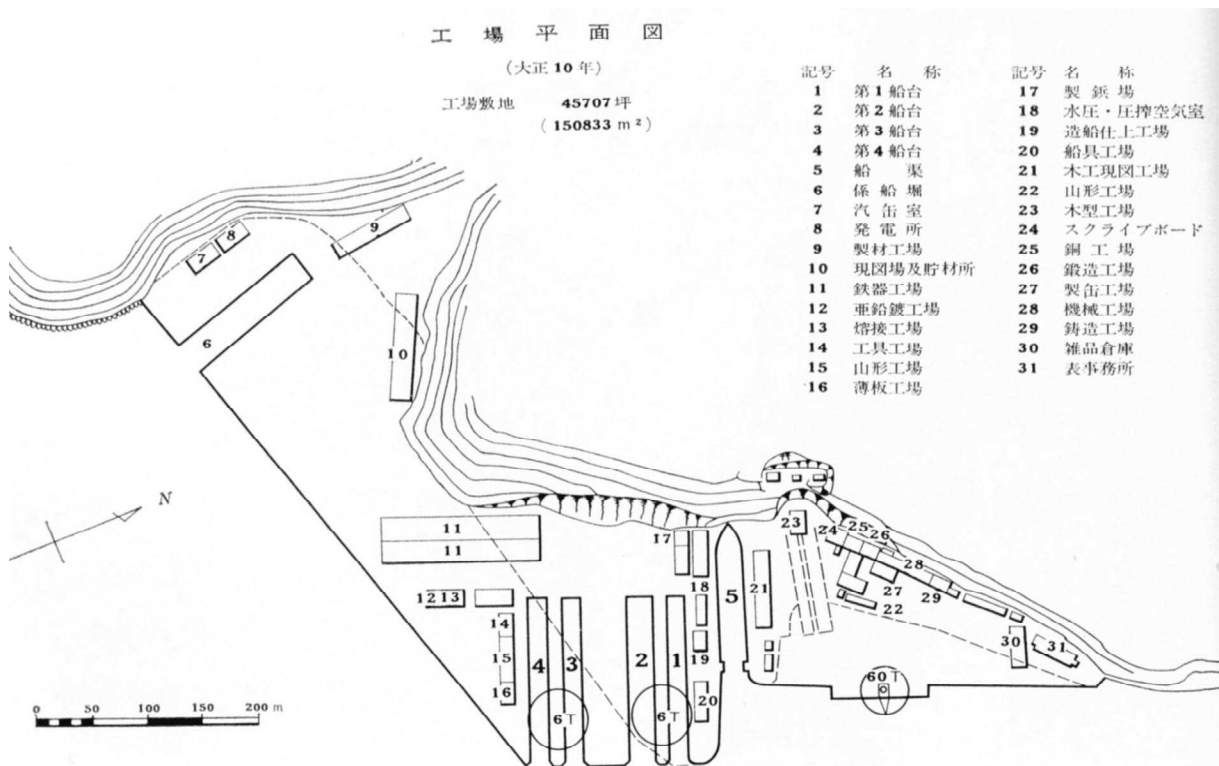
兵庫県赤穂郡相生港播磨造船所職工退場渡船ノ景
(藤井謹写)



1919(T08)年

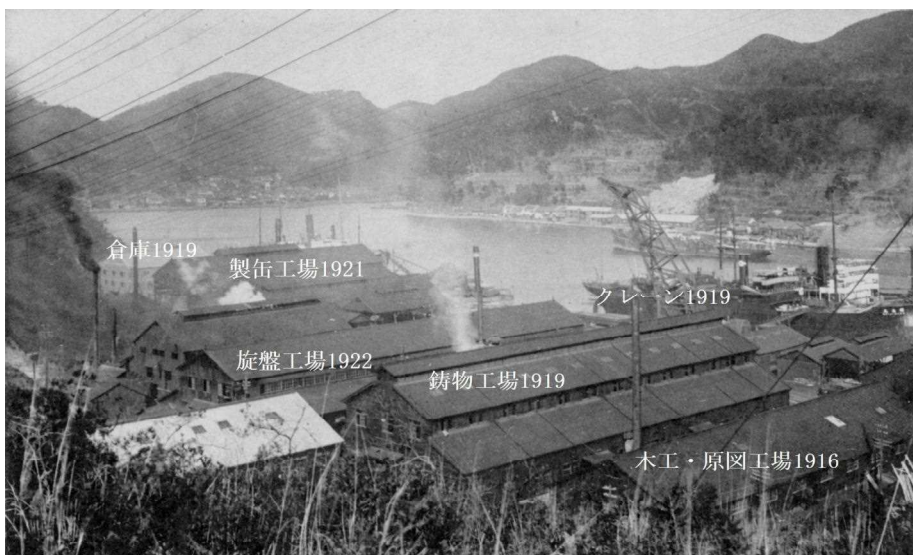
船台の西に建設中の造船機械工場の鉄骨。工場は1920(T09)年7月に完成した。

V 株式会社神戸製鋼所播磨造船工場平面図 1921(T10)年

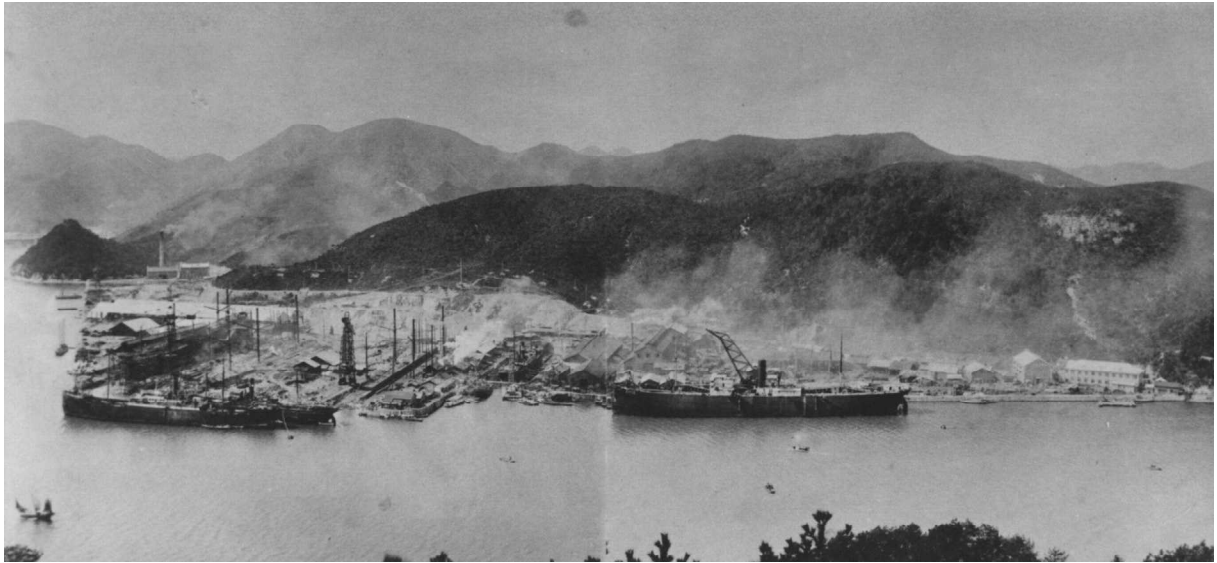


播磨造船所50年史より 1921(T10)年の工場平面図

1918(T07)年、第一次世界大戦が終結し、1919(T08)年に入ると海上運賃の下落が始まった。戦時中の船舶大量建造で船腹が増大したにもかかわらず、戦後の貿易不振で海上輸送量が減少したため運賃・傭船料は暴落、各地で造船所の閉鎖が相次いだ。鈴木商店も造船所の整理・統合を進め、1921(T10)年2月、帝国汽船播磨造船所は神戸製鋼所播磨造船工場となった。従業員は1920(T09)年の5595名から1921年の3939名に減少したが設備の増強は続き、1921(T10)年、神戸製鋼所の製缶工場を移設、1922(T11)年、旋盤工場が新設された。



1922(T11)年頃
神戸製鋼所は播磨造船工場の施設を拡充し、工場群を完成させた。
絵葉書
(播州)神戸製鋼所
播磨造船工場其ノ二
(寺田屋書店発行)



1921(T10)年頃の播磨造船所全景

前頁は播磨造船所50年史所収の「大正10年の工場平面図」。上は50年史に「大正10年当時の当社全景」として掲載されているものと同じ写真である(別の写真からスキャンしたのでトリミングが少し異なる)。平面図には点線で1916(T05)年の海岸線と仮船台が描かれていて、1919(T08)年に仮船台の跡地に新築された鑄造工場は記されていない。1921(T10)年は旧工場の撤去・製缶工場などの新築が行われており、平面図は鈴木商店進出時にあった旧工場が鈴木商店の拡張計画に基づいた新工場に置き換わる過渡期の様子を示している。

写真は播磨造船所50年史では1921(T10)年頃とされている。1921(T10)年とすると、神戸製鋼所から移設された製缶工場が写っていないことから、帝国汽船造船部から神戸製鋼所播磨造船工場に移行する時期のものである。



1922(T11)年頃
北から造船所に入る正門付近。正面の表事務所に神戸製鋼所のSマークが見える。

絵葉書

(播州)神戸製鋼所
播磨造船工場正門
(寺田屋書店発行)

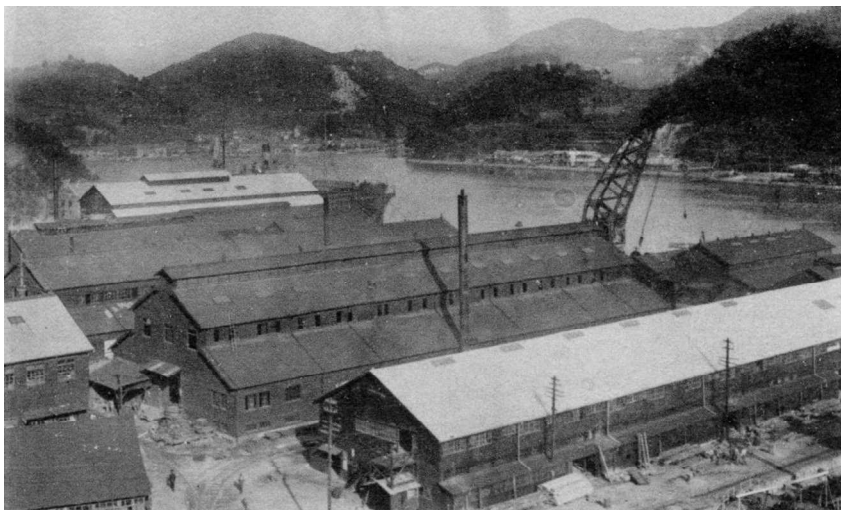


1924(T13)年頃

1922(T11)年、対岸に網の浦船員倶楽部を新築、1924(T13)年に高級船員の宿舎を建設した。

絵葉書

網ノ浦ヨリ造船工場ヲ望ム
兵庫県赤穂郡相生港播磨
(相生町久我書店発行)

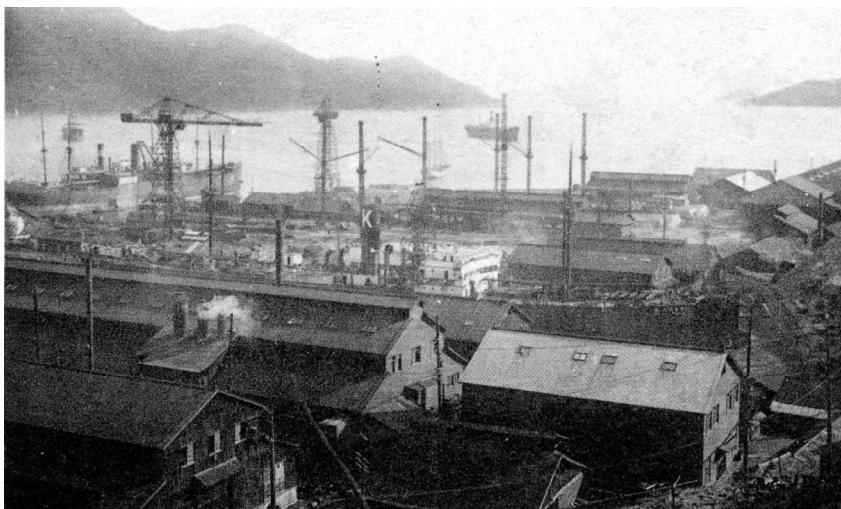


1924(T13)年頃

鈴木商店が海面を埋め立てて新築した製缶工場・旋盤工場・鋳物工場・木工工場等が並ぶ。

絵葉書

播磨造船工場ト
相生港ヲ望ム
(相生町久我書店発行)

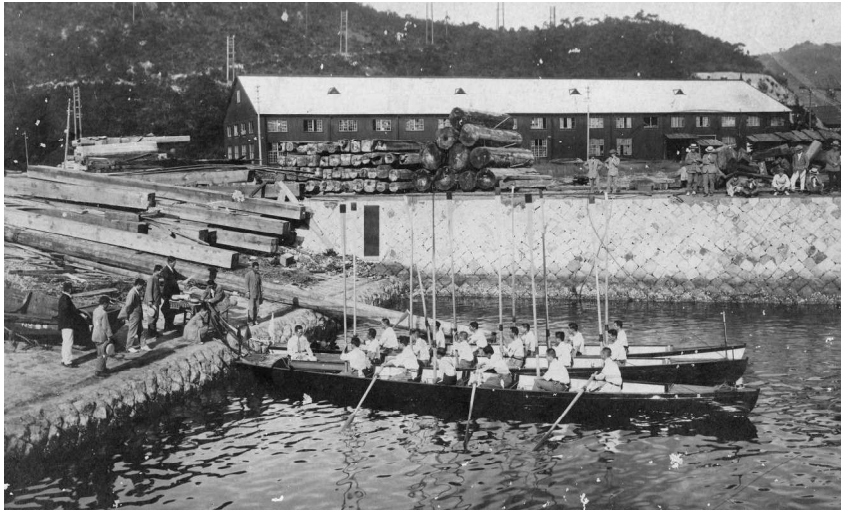


1924(T13)年頃

船渠にKラインの船が入渠している。船台は5基計画され、4基が建設された。

絵葉書

兵庫県赤穂郡相生町
播磨造船工場ノ一部
(相生町久我書店発行)



1922(T11)年10月
短艇進水の記念写真。
播磨造船所では1922年
から海上運動会が始ま
り、5月にボートレース
とペーロン競漕が行わ
れた。背景に見えてい
るのは、原図工場・貯
材所。



1922(T11)年頃
通勤時を除き、町と造
船所は舢舨で行き来し
た。鈴木よね店主も、
那波駅からの馬車で来
ると舢舨で渡った。

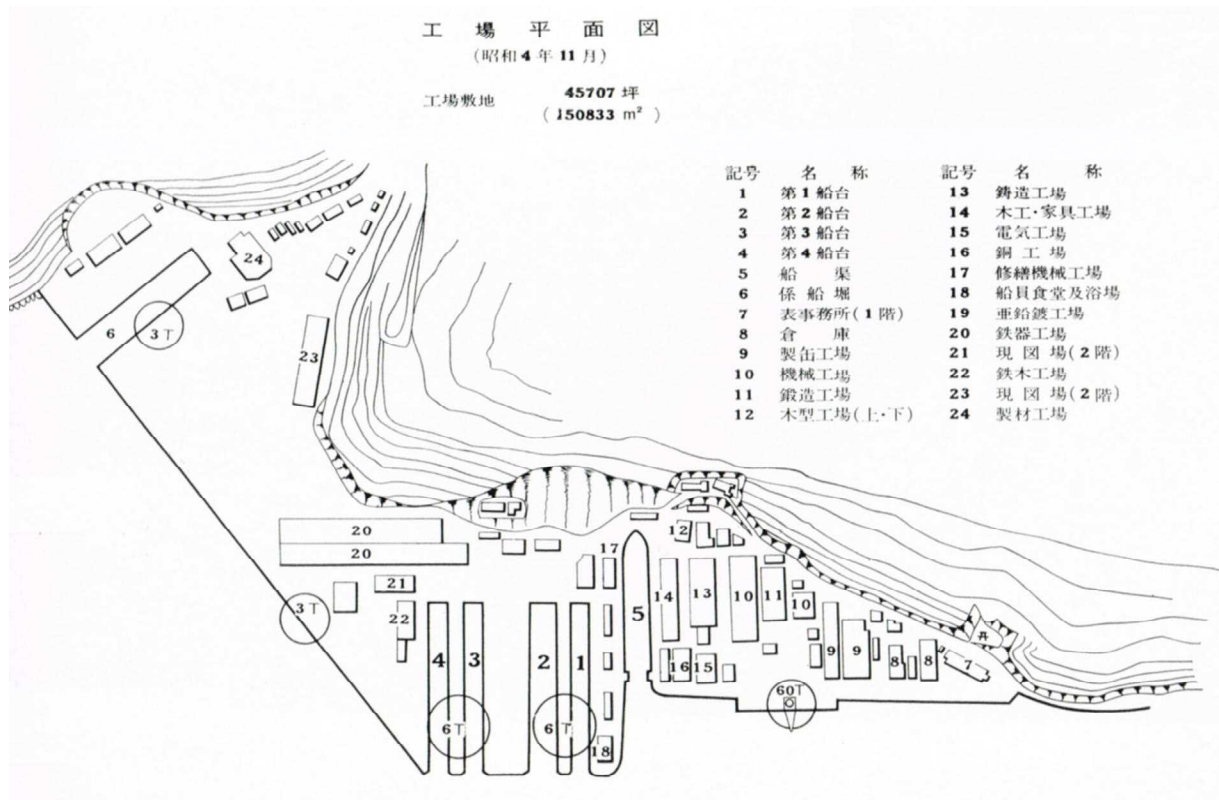
絵葉書
(播州)神戸製鋼所
播磨造船工場棧橋
(寺田屋書店発行)



1924(T13)年頃
簀谷には長屋の職工社
宅・戸建ての社員社宅
・商店街があった。播
磨病院・済美幼稚園・
徒弟教習所などの施設
も開設された。

絵葉書
慰霊碑ト簀谷社宅
(相生町久我書店発行)

VI 株式会社播磨造船所 工場平面図 1929(S04)年



播磨造船所50年史より 1929(S04)年の工場平面図



1932(S07)年の播磨造船所全景

1927(S02)年の金融恐慌で鈴木商店が破綻、神戸製鋼所は緊縮整理のため鳥羽工場の造船部門・起重機部門を相生に統合した。1929(S04)年、神戸製鋼所は事業が異なり規模の大きい播磨造船工場の分離独立を決定し、11月27日、株式会社播磨造船所が設立された。従業員は職員187名・工員1220名・社外工700名の2107名であった。

1916(T05)年、鈴木商店は相生進出にあたって工場拡張計画を立案、本店からの潤沢な資本投下によって、1922(T11)年、神戸製鋼所播磨造船工場時代に計画を完遂したのである。



1932(S07)年

1932～1933年は世界恐慌で建造量は激減、多くの船が係船されていた。1935(S10)年から造船は回復に向かう。

絵葉書

兵庫県赤穂郡相生町

相生港内港其ノ一

(久我商店発行)



1932(S07)年

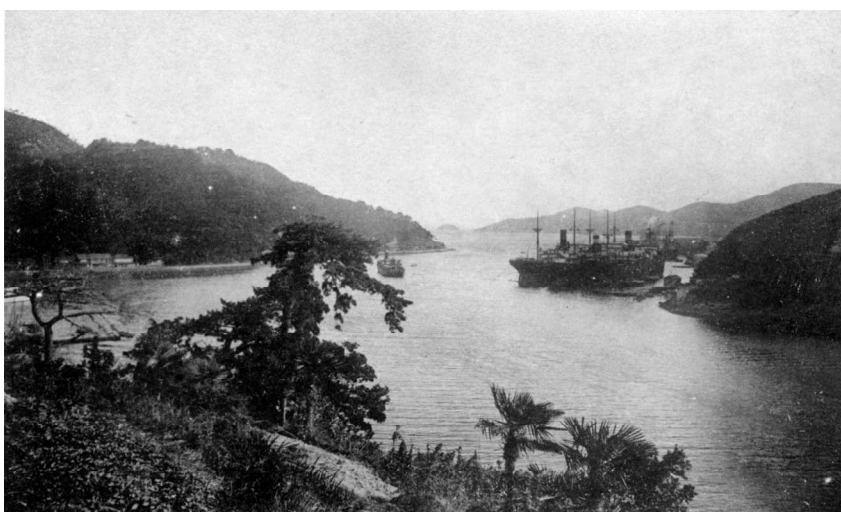
播磨造船所が建造した最初の軍艦、中華民国軽巡洋艦甯海が工場の前に停泊している。

絵葉書

兵庫県赤穂郡相生町

相生港内港其ノ二

(久我商店発行)



1932(S07)年

造船所の北の岬の高台に、1931(S06)年、唐端清太郎顕彰碑が建てられた。題字は浜口雄幸。

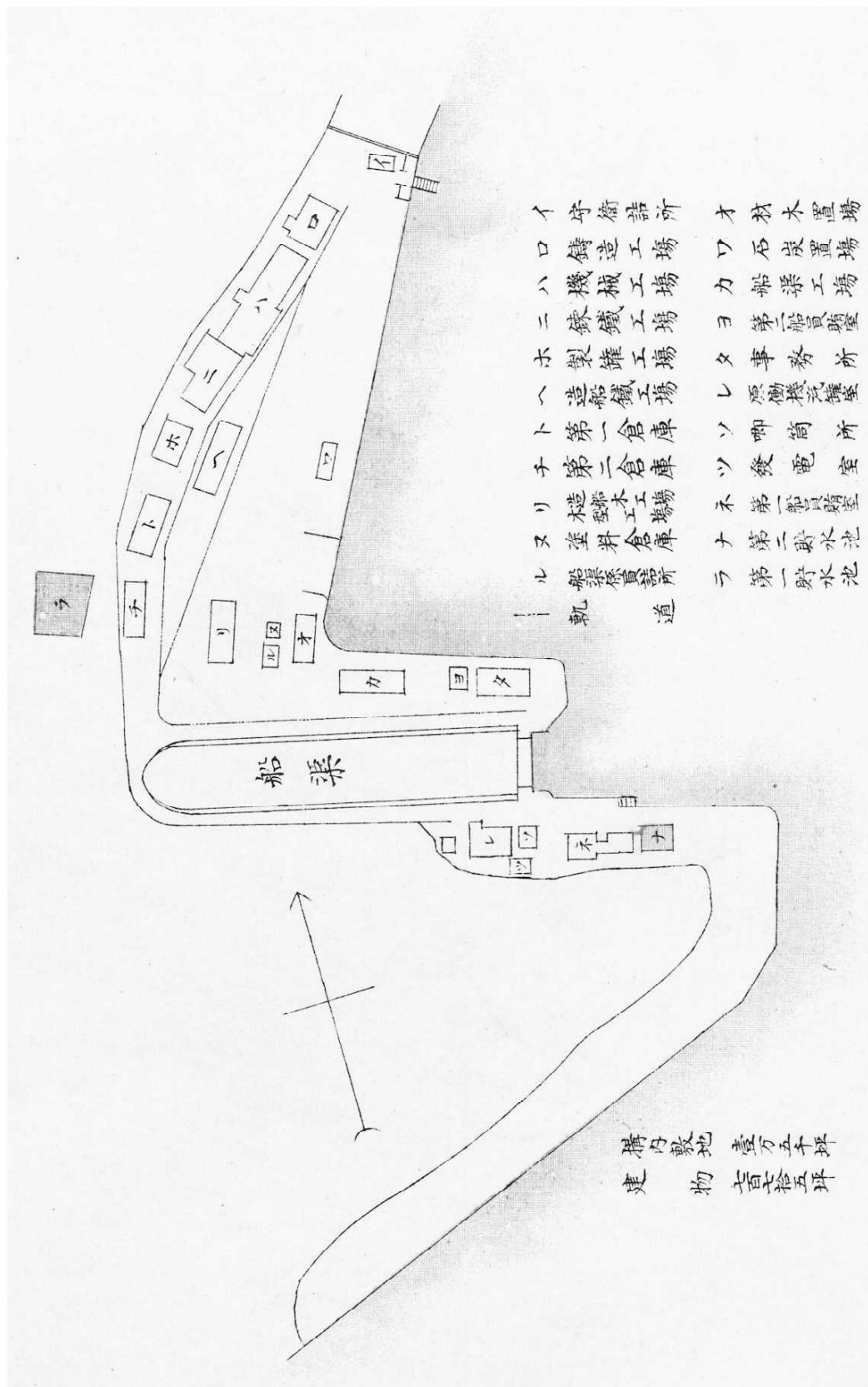
絵葉書

兵庫県赤穂郡相生町

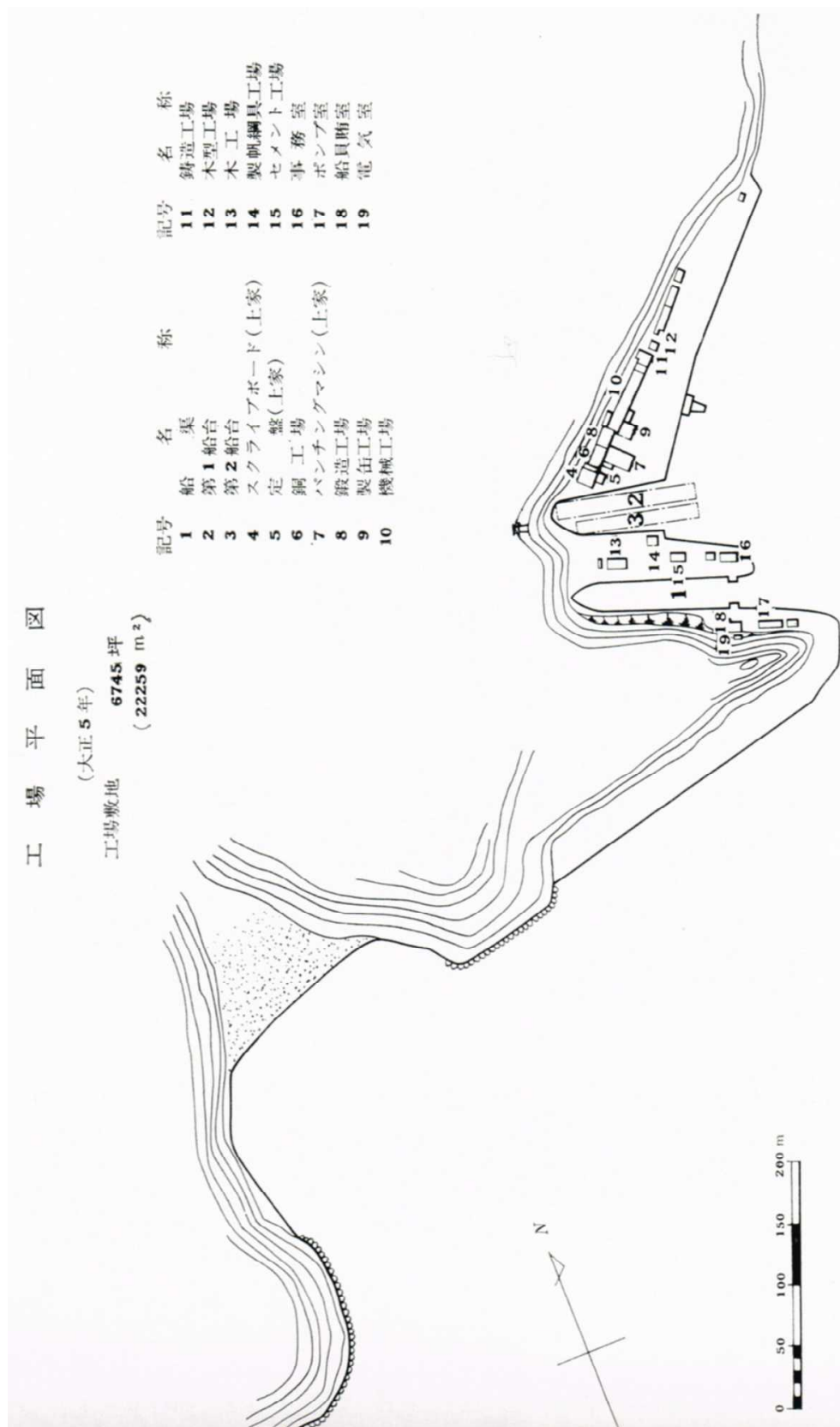
相生湾口蔓島遠望(外港)

(久我商店発行)

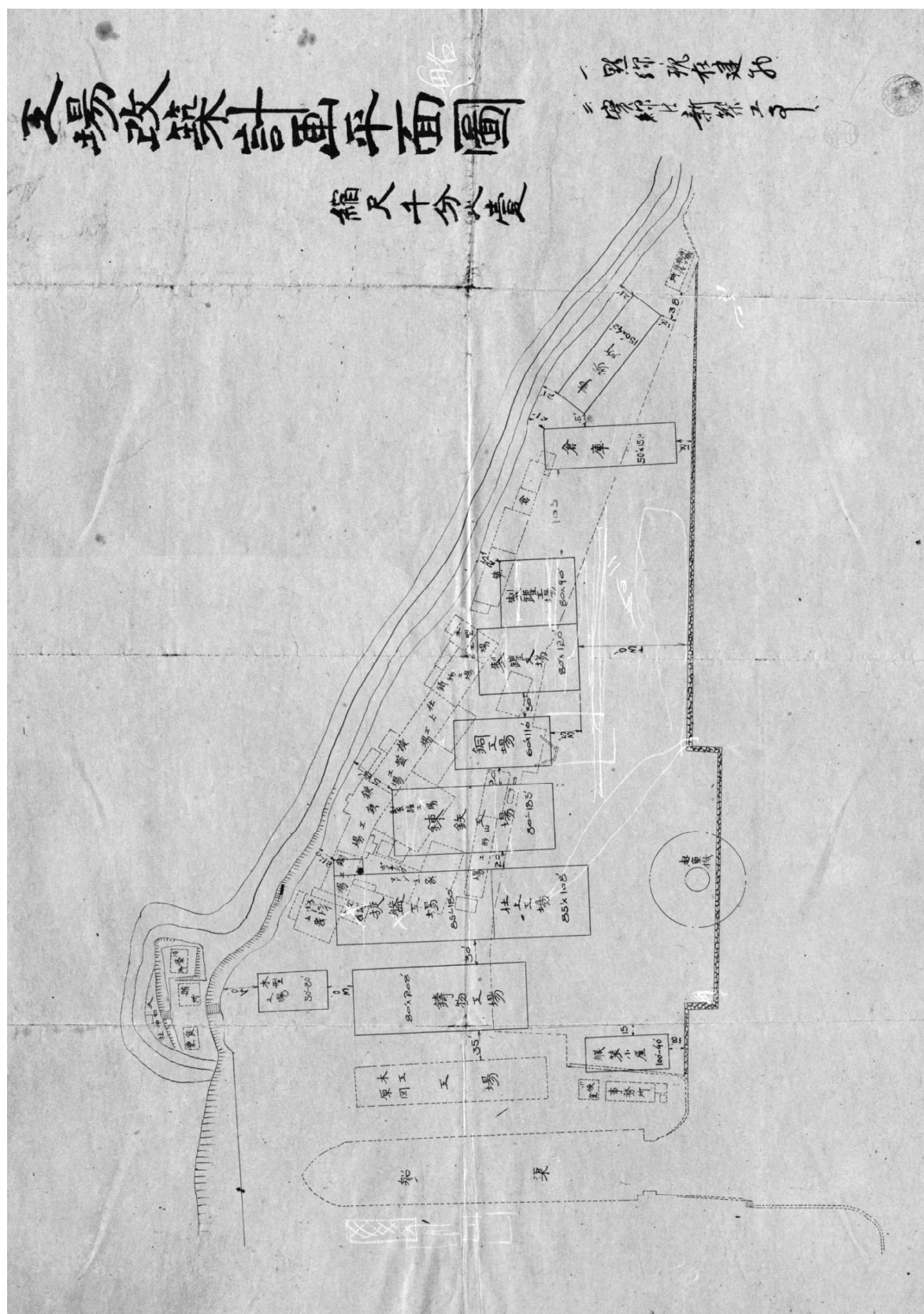
I 播磨造船株式会社構内平面図 1913(T02)年



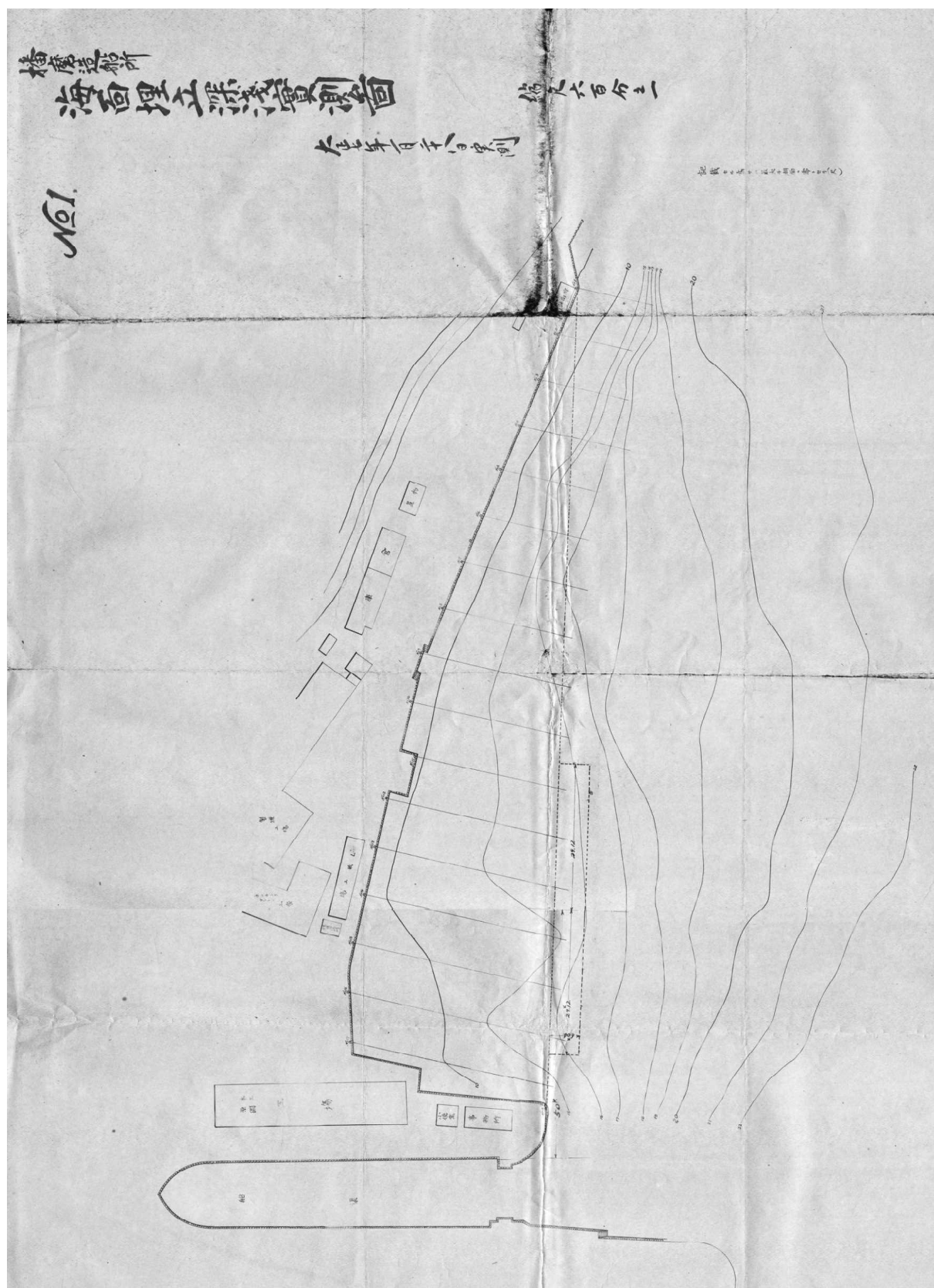
II 株式会社播磨造船所工場平面図 1916(T05)年



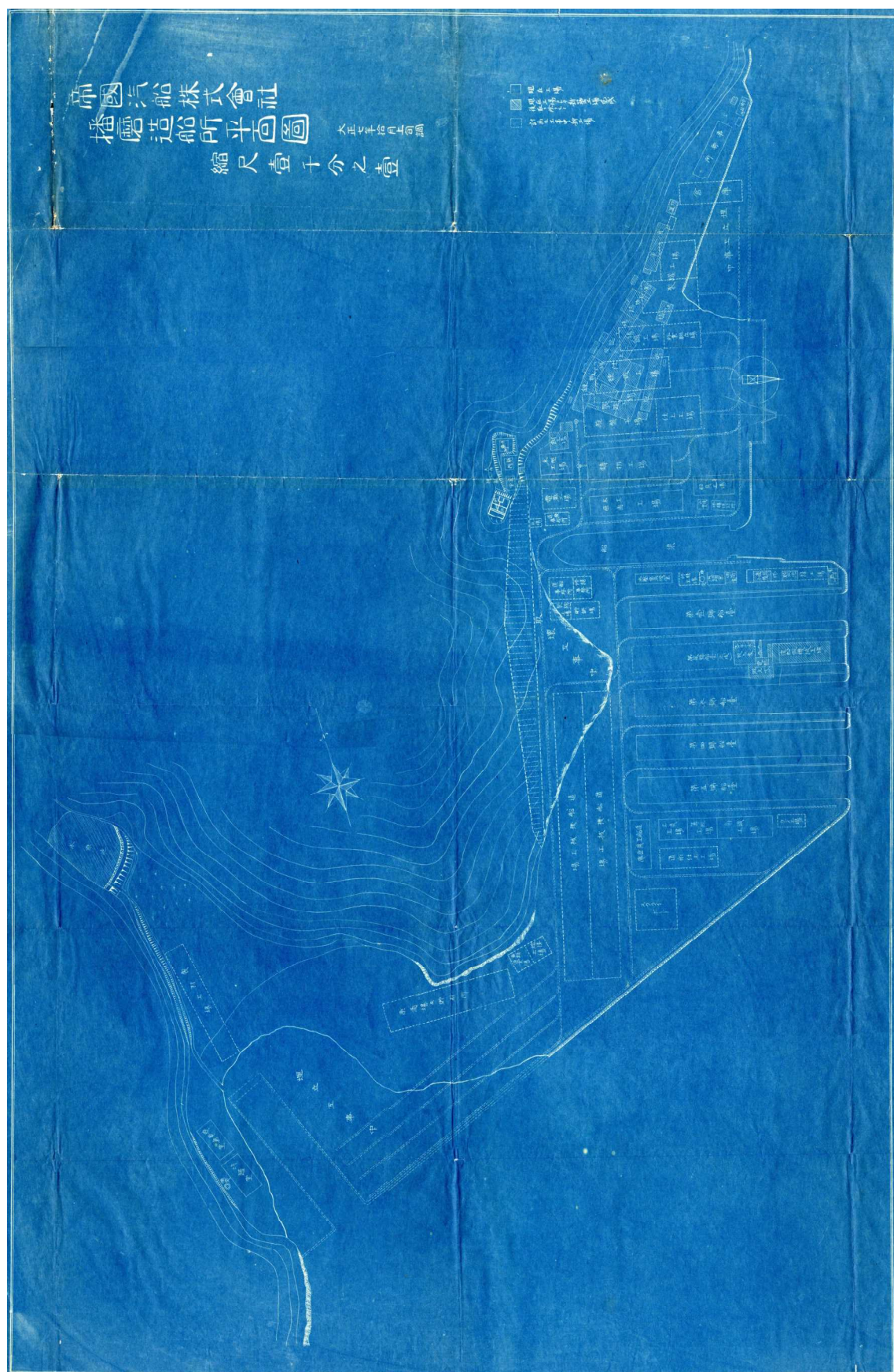
III-1 株式会社播磨造船所工場改築計画平面図 1917(T06)年



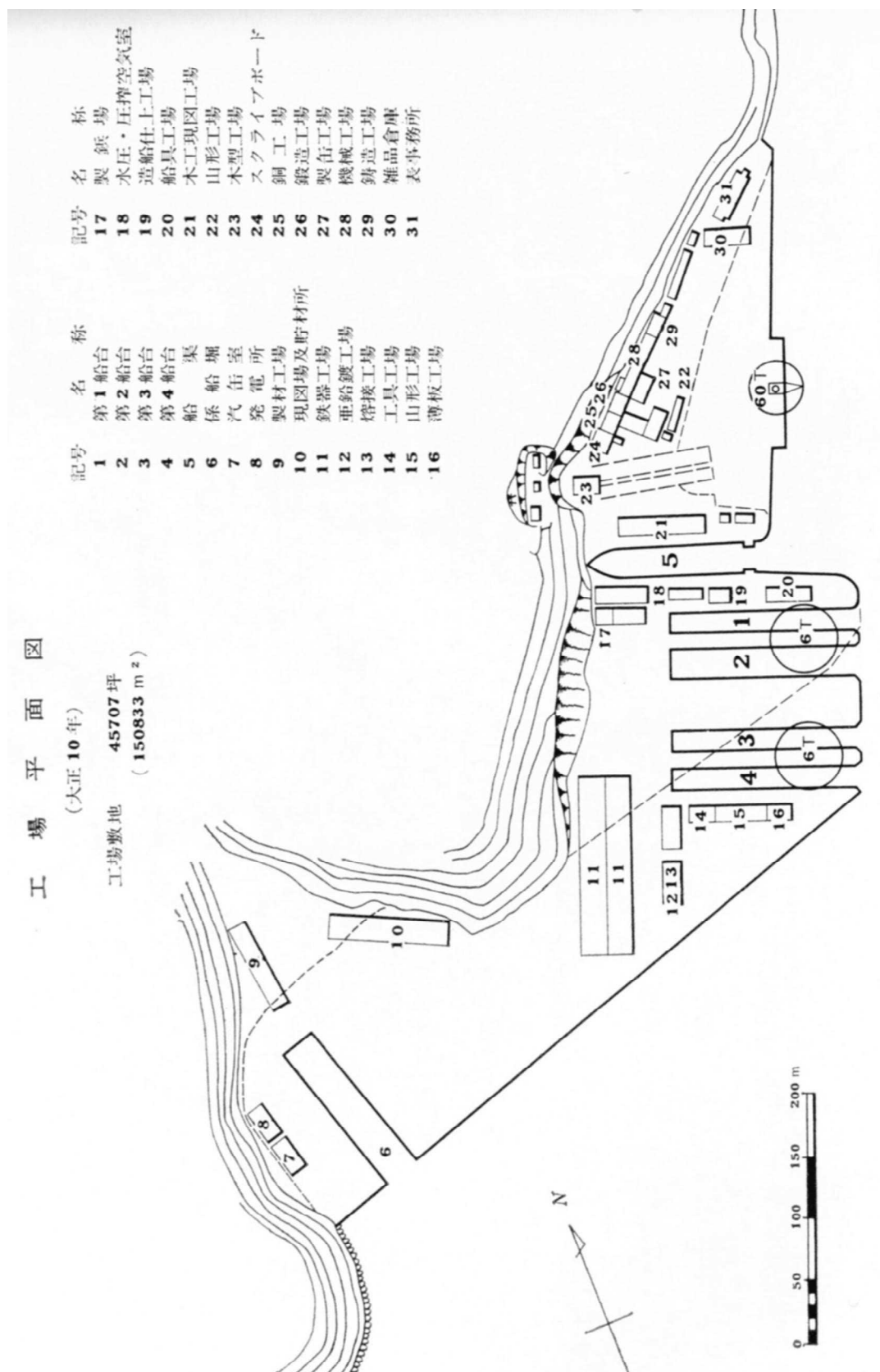
III-2 株式会社播磨造船所海面埋立深淺実測図 1918(T07)年1月28日

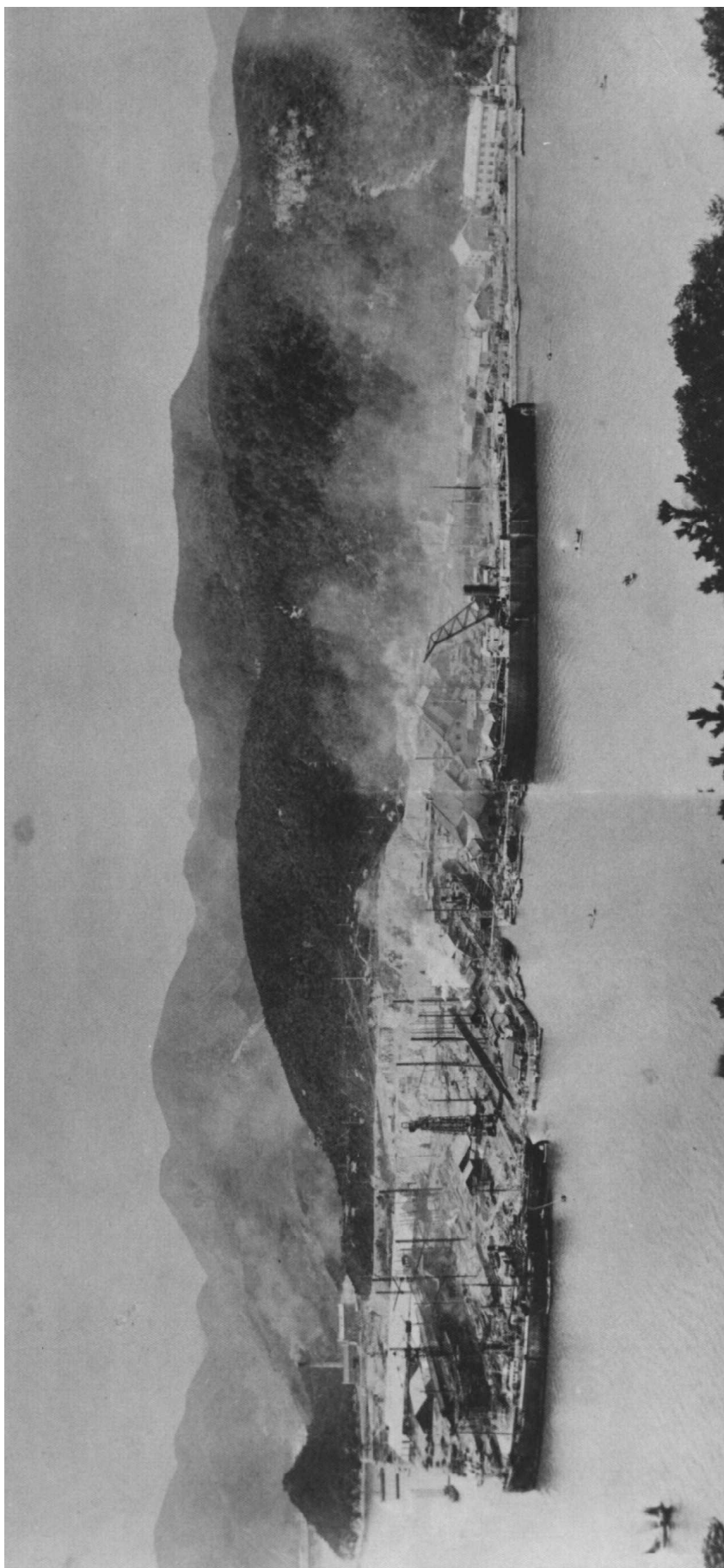


IV 帝国汽船株式会社播磨造船所平面图 1918(T07)年10月



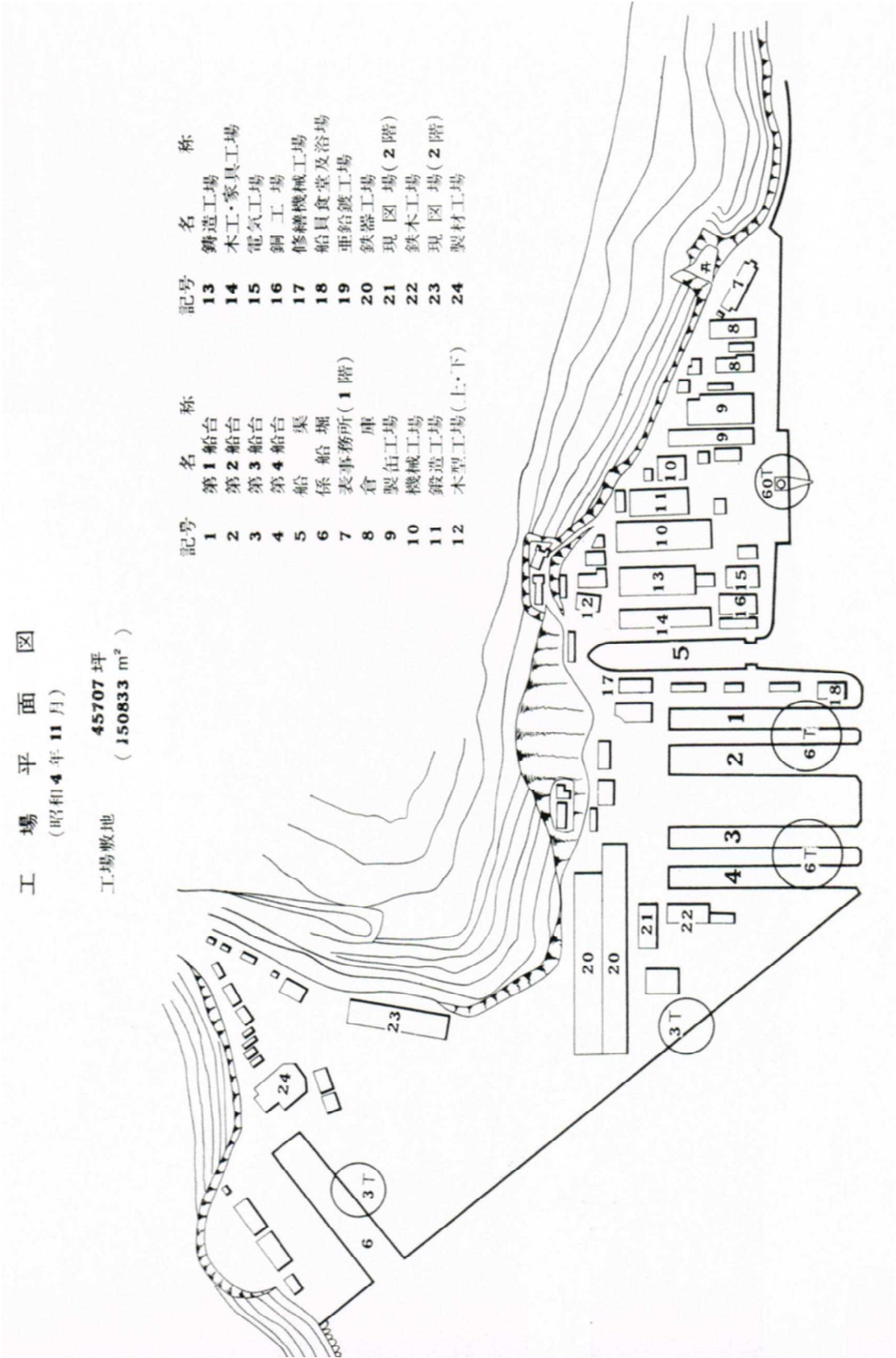
V 株式会社神戸製鋼所播磨造船工場平面図 1921(T10)年





1921(T10)年頃の
播磨造船所全景

VI 株式会社播磨造船所 工場平面図 1929(S04)年





1932(S07)年の播磨造船所全景

図面・写真・絵葉書出典一覧

頁

00	EASTERN SOLDIER 進水記念絵葉書	1920年	神谷泰彰提供	相生映像アーカイブ
01	播磨造船株式会社構内平面図	1913年	播磨造船写真帳	歴史民俗資料館
02	播磨造船全景	1913年	播磨造船写真帳	歴史民俗資料館
	絵葉書 赤穂郡播磨造船所其一	1914年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 赤穂郡播磨造船所其一	1914年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
03	株式会社播磨造船所工場平面図	1916年	播磨造船所50年史	
04	絵葉書 相生港播磨造船所全景	1916年	市史編纂資料	歴史民俗資料館
	吉備丸進水記念絵葉書 2 枚	1916年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
05	株式会社播磨造船所工場改築平面図	1917年	歴史民俗資料館	
06	第一期海面埋め立て工事	1917年	神谷泰彰提供	相生映像アーカイブ
	未完成の第一船台	1917年	神谷泰彰提供	相生映像アーカイブ
	完成した第一船台	1918年	園田家提供	相生映像アーカイブ
07	播磨造船所海面埋立深浅実測図	1918年	歴史民俗資料館	
	絵葉書 壮快ナル進水式ノ景	1918年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
08	絵葉書 第七号船第六与禰丸	1918年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
	建設中の表事務所	1918年	園田家提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 播磨造船所藪谷社宅全景	1918年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
09	帝国汽船株式会社播磨造船所平面図	1918年	歴史民俗資料館	
	鈴木商店工事部封筒	1918年	歴史民俗資料館	
	EASTERN SOLDIER 進水式	1918年	松井照男提供	相生映像アーカイブ
10	帝国汽船株式会社播磨造船所平面図	1918年	09の平面図に加筆	
	播磨造船所と修繕船	1918年	園田家提供	相生映像アーカイブ
11	絵葉書 播磨造船所全景其一	1919年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 播磨造船所全景其二	1919年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 帝国汽船播磨造船所	1919年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
12	絵葉書 網ノ浦ヨリ見タル播磨造船所	1920年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 職工退場渡船ノ景	1919年	足羽恵提供	相生映像アーカイブ
	建設中の造船機械工場	1919年	神谷泰彰提供	相生映像アーカイブ

頁

13	神戸製鋼所播磨造船工場平面図	1921年	播磨造船所50年史	
	絵葉書 播磨造船工場其ノ二	1922年	船岡家提供	相生映像アーカイブ
14	大正10年頃の播磨造船所全景	1921年	南良彦提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 播磨造船工場正門	1922年	船岡家提供	相生映像アーカイブ
15	絵葉書 網ノ浦ヨリ造船工場ヲ望ム	1924年	大川弘提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 造船工場ト相生港ヲ望ム	1924年	大川弘提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 播磨造船工場ノ一部	1924年	大川弘提供	相生映像アーカイブ
16	短艇進水記念	1922年	園田家提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 播磨造船工場棧橋	1922年	船岡家提供	相生映像アーカイブ
	絵葉書 慰霊碑ト藪谷社宅	1924年	大川弘提供	相生映像アーカイブ
17	株式会社播磨造船所工場平面図	1929年	播磨造船所50年史	
	昭和7年播磨造船所全景	1932年	月岡家提供	歴史民俗資料館
18	相生港内港其ノ一	1932年	市史編纂資料	歴史民俗資料館
	相生港内港其ノ二	1932年	大川弘提供	相生映像アーカイブ
	相生湾口蔓島遠望	1932年	大川弘提供	相生映像アーカイブ

相生市立歴史民俗資料館 REPORT 2016.02.15

鈴木商店相生進出百周年特別展準備資料①

作成者 相生市立歴史民俗資料館歴史講座講師 松本恵司